

豊二校だより

学力調査特別号

令和3年(2021年)11月19日 No. 9
 吹田市立豊津第二小学校
 吹田市江坂町2丁目5番1号
 TEL6386-0861 FAX6386-8743
<http://www2.suita.ed.jp/school/es/16-toyo2/>

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として『令和3年度全国学力・学習状況調査』を実施し、9月中旬に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願いいたします。

1、教科に関する調査結果の分析 (△…上回っているもの ▼…下回っているもの ◇…同じもの)

●国語 (14問 45分)

《概要》 本校児童の正答率は、全国値を大きく上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

話すこと 聞くこと	△目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることでは、全国値を大きく上回っている。 △資料を用いた目的を理解することでは、全国値を大きく上回っている。 △目的や意図に応じ、資料を使って話すことでは、全国値を上回っている。
書くこと	△自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることは、全国値を大きく上回っている。 △目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは、全国値を上回っている。
読むこと	△文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することについては全国値とほぼ同じであるが、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することは、全国値を大きく上回っている。 △目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題は、全国値を上回っている。
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	△▼主語と述語との関係や修飾語と被修飾語の関係などを正しく選択する問題では、全国値をやや上回っているが、無解答率が他の問題に比べて大きく上回っている。 ▼学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、全国値をやや下回っている。

国語科における成果と今後の改善点について

話すこと・聞くことに関しては、すべての項目で全国値を上回っています。今後も話し合い活動を取り入れ、相手のことを意識して聞く、話すことができるよう学習活動を工夫していきます。

書くことや伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、設問によって下回っているものもありますが、全国値と同じ、またはやや上回っています。朝学習での語彙力形成の取り組みや、ふりかえりで自分の考えを書くということの積み上げの成果をみることができ、引き続き取り組んでいきます。また、辞書引きを通して、語句の意味理解を深めさせることにも取り組んでいきます。

読むことに関しては、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することについては全国値とほぼ同じですが、その他はそれぞれ全国値を大きく上回っています。朝の読書タイム等の取り組みの成果をみることができ、読書活動にこれからも取り組んでいきます。

全体として全国値を上回っており、研究主題にある「自分の考えを伝え合い、学び合う子どもたちの育成」の成果をみることができ、しかし、無回答率が全国値を上回るものもあり、子どもたちが自分の考えをもち、それを表現することができる授業づくりをこれからも研究し、工夫していきます。

●算数（16問 45分）

《概要》 本校児童の正答率は、全国値を大きく上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

数と計算	△加法及び減法に関して成り立つ性質について言葉を用いて記述する問題では、全国値を大きく上回っている。 △示された計算の仕方を解釈し、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表して計算する問題では、全国値を大きく上回っている。
図形	△示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方を計算する問題では、全国値を上回っている。 △図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方を捉え、面積を求める計算では、全国値を大きく上回っている。
測定・変化と関係	△変化と関係の領域において、速さを求める式の意味理解を問う問題で、全国値を大きく上回っている。 ▼複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法を基に捉え比べる問題では、全国値をやや下回っている。
データの活用	△データの活用の領域において、5つの問題全てで全国値を上回っており、中でも帯グラフから一番大きな割合を占める項目を読み取る問題が、全国値を大きく上回っている。

算数科における成果と今後の改善点について

全体として全国値を大きく上回り、日々の授業における少人数指導や算数タイム、学保タイムでの積み上げの成果がみられます。全国値と比べると無解答率は低いですが、その中でも図や式、言葉を使って説明したり、理由を書いたりする記述式の問題では無解答率が高くなる傾向がみられます。また、場面から数量の関係を捉えたり、2つの数量を比べるとき基準量を1として考え比較量を小数で表したりすることには課題がみられます。

このことから、算数科の授業では、既習の内容を使って問題への見通しをもち、自分の考えを図、式、言葉などで表現し、自力解決できるよう今後も指導を続けていきます。言葉や図と式を関連付けるような活動を取り入れ、図で表した関係を式にしたり、式で表した関係を図で表したり、図や式の意味を言葉で説明したりすることを大切にしていきます。また、日常生活には、算数で学習したことを活用できる場面が多くあり、算数で学んだことを他教科につなげる学習も展開していきます。併せて、授業以外の算数タイムや学保タイムにおいて図形問題や文章問題、四則計算問題などの既習内容の定着に引き続き力を入れ伸ばしていきます。

2、児童アンケートに関する調査結果の分析

授業等学校生活に対する意識	国語について	<p>△授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼授業が好きだと答えた児童は、全国値を大きく下回っている。</p> <p>▼授業の内容はよく分かると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p>
	算数について	<p>△授業の内容はよく分かると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>△授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>▼授業が好きだと答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p> <p>▼授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p>
	その他	<p>△学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思うと答えた児童は、全国値をやや上回っている。</p> <p>△5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたと答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童は、全国値を上回っている。</p> <p>△これまでの学校の授業以外で英語を使う機会があると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>△学校の授業時間以外に、勉強をすると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、よく使用していると答えた児童は、全国値を大きく下回っている。</p> <p>▼学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p> <p>▼学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた児童は、全国値を下回っている。</p> <p>▼調査問題の解答時間が十分だと答えた児童は、国語において全国値を大きく下回っている。</p> <p>▼新聞を読んでいる児童は、全国値を下回っている。</p>
家庭や地域での生活に対する意識	<p>△携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>◇朝食を毎日食べていると答えた児童は、全国値とほぼ同じである。</p> <p>▼毎日、同じくらいの時間に寝ていると答えた児童は、全国値を下回っている。</p> <p>▼普段、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）を3～4時間以上していると答えた児童は、全国値より大きく上回っている。</p>	
新型コロナウイルスで多くの学校が休校していた期間中の生活	<p>△不安を感じていたと答えた児童は、全国値を大きく下回っている。</p> <p>△学校からの課題でわからないことがあったとき、先生や友達に聞いた、わからないことがなかったと答えた児童が、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼計画的に学習を続けることができたと答えた児童は、全国値を下回っている。</p> <p>▼規則正しい生活を送っていたと答えた児童は、全国値を下回っている。</p>	

自己肯定感に関する意識	<p>△将来の夢を持っていると答えた児童は、全国値をやや上回っている。</p> <p>△人の役に立つ人間になりたいと答えた児童は、全国値をやや上回っている。</p> <p>△自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると答えた児童は、全国値を大きく上回っている。</p> <p>▼自分には良いところはあると答えた児童は、全国値をやや下回っている。</p>
-------------	---

3、今後の取り組み

本校では、2018年度よりコミュニケーション力の向上を目指して、国語科の授業研究に取り組んでいます。以前より取り組んできた本校の研究主題「自ら考え、表現し、伝え合う子どもの育成」をより進めるため、昨年度に続き、自分の考えをまとめ表現し、友だちの意見を聞いて考えを練り上げていく主体的な学習活動を多く取り入れていきます。また、学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫、研究を一層進めていきます。さらに、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、児童の自己肯定感を高め、自立と幅広い学習の機会をつくるため、次のように取り組みを進めます。

【学力向上について】

- ・自分の感想や考えをもち、それらを広げたり、深めたり、表現したりできるよう、豊津西中ブロックで取り組んでいる「思考ツール」の活用を引き続き日々の授業に取り入れていきます。また、学習のスタンダードである「めじつたふ」（めあて・自分の考え・伝え合い・確かめる・振り返り）を大切に、児童の意欲を高める授業づくりを進めます。
- ・児童に一人一台導入された SUN ネット端末（iPad）やプロジェクタ等の ICT 機器を効果的に活用し、さらなる学習の意欲向上と、理解力向上へつながる授業の研究と実践に取り組んでいきます。
- ・英語については、学校の授業以外での必要性を感じている児童が多いことから、これからも実生活につながられるように意識し、授業づくりに取り組んでいきます。

【授業規律・生活規律について】

- ・生活目標については、毎月の集会で確認し、ふり返りカードを使って一人ひとりが目標を振り返るなど意識を高め、よりよい行動につながる機会を今後も大切にしていきます。
- ・携帯電話やスマートフォン等の使用方法や、正しい SNS の使い方、情報モラルなどを、引き続きデジタルシティズンシップ（DC）教育を通して指導していきます。
- ・豊津西中ブロックでは、様々な連携をしており、授業規律を揃えていくことや、生活規律の課題についても3校で検討し合い、改善に向けて推進していきます。

【仲間づくりについて】

- ・新しい生活様式のもと、活動や交流に制限がかかる中、「友だちと協力するのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答した児童は非常に高い割合を占めており、今後もこの思いを育んでいけるよう、持続可能な教育活動を実施していきます。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答した児童は高い割合を占めていますが、すべての子どもたちにとって学校が有意義な場と感ぜられるよう努めていきます。
- ・あすなる活動（異学年集団における活動）を通して、学校全体の豊かな仲間関係を作り、思いやりの心を育てるとともに、リーダーとしての自覚や責任感を育て、自己肯定感を高めていきます。

【規則正しい生活習慣について】

- ・就寝時間や時間の使い方に課題がみられる児童が多く、休校期間中にもその影響があり、本校児童の生活習慣の乱れが進んでいることが懸念される結果でした。毎年、本校児童に実施している「生活習慣調べ」では、今年度、新型コロナウイルス感染症に関連する項目を設け、児童の生活面だけでなく心理面の把握にも努めました。結果の把握は、今後の指導に役立てていきます。これからも引き続き、児童が自分の生活習慣だけでなく心の健康にも目を向け、心身ともに健康に過ごせるよう指導に取り組むとともに、保護者への情報発信等にも取り組んでいくよう努めます。